

# 誘引を伴うくりわなによるニホンジカ捕獲の試み（応用編）

## 凍結対策を施した誘引式くりわなで積雪期のシカを捕る

### 背景

○誘引式くりわなは、捕獲効率の向上と錯誤捕獲の軽減できる手法として実用化が各地域で進んでいる。  
 しかしながら  
 ○誘引効果が最も期待できる雪が残る春先は、わなの凍結による誤作動（空ハジキ）や不作為が発生し、捕獲効率が低下する恐れがある。  
 そこで  
 ○わなの凍結対策を施した誘引式くりわなの有効性を実証するため残雪期の奥日光で捕獲試験を行った。



### 方法



実施場所と時期  
 ◆奥日光の湯川西側に位置する市道1002号線及び千手ヶ原周辺  
 ・前期  
 H29年3月28日～4月4日  
 ・中期  
 4月16日～4月26日  
 ・後期  
 5月7日～5月14日



中期においては、モバイルカリング(4月6日～14日)の餌場を引き継いで有効利用



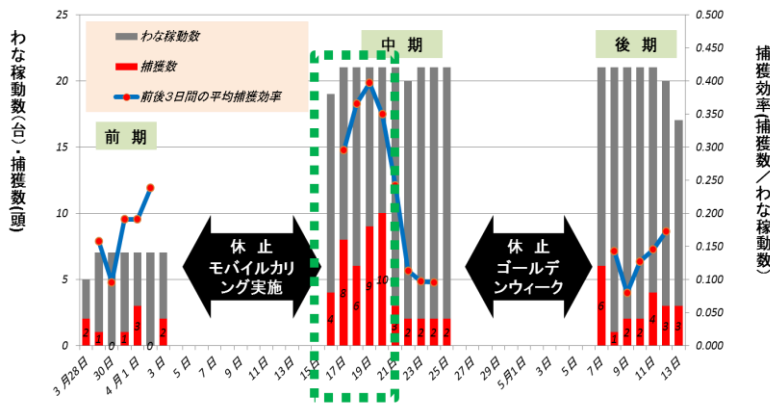
- ・凍結した土壌との緩衝材となる**専用のわなケース**を使用
- ・わなの作動部の凍結を防ぐため、わなを市販の**シャワーキャップ**で被覆
- ・ワイヤーバネの凍結を防ぐため、周りを**落ち葉**で覆うとともに、**縦に割った竹**を被せた。

### 結果と考察

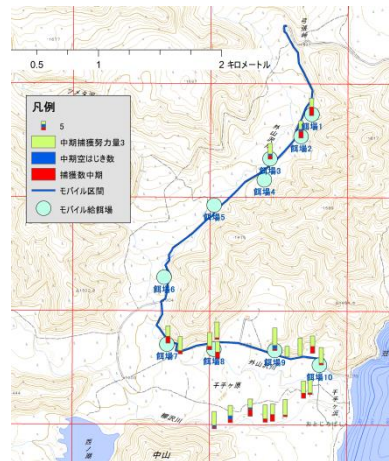
年	期間	稼働日数	捕獲努力量	捕獲数	捕獲効率	空ハジキ数	空ハジキなし捕獲成功率
2017 (平成29年)	前期 (3～4月)	7	47	9	0.191	0	1.000
	中期 (4月)	10	207	48	0.232	8	0.857
	後期 (5月)	7	142	21	0.148	4	0.840
	計	24	396	78	0.197	12	0.867

参考	期間	稼働日数	捕獲努力量	捕獲数	捕獲効率	空ハジキ数	空ハジキなし捕獲成功率
2016 (平成28年)	5月	15	269	22	0.082	7	0.759
	10月	28	534	41	0.077	13	0.759
	計	91	803	63	0.078	20	0.759

※空ハジキなし捕獲成功率  
 = 捕獲数 / (捕獲数 + 空ハジキ数)



- ◆ 全期間の捕獲効率は**0.197(78頭/396TN)**で、くりわなによるシカの捕獲としては極めて高い値→**5基中1基で毎日1頭捕獲できる効率**
- ◆ 空ハジキ無しの捕獲成功率[捕獲数/(捕獲数+空ハジキ数)]は**0.867[(78/(78+12))]**で非積雪期の平成28年5月と10月の結果**0.759[63/(63+20)]**と比べて同等以上
- ◆ 期間毎の捕獲効率は、**前期0.191(9頭/47TN)**、**中期0.232(48頭/207TN)**、**後期0.148(21頭/142TN)**で、当該地域の雪が消失し、草本類が芽生え始めた5月(後期)は低い傾向



- ◆ 中期における前半の5日間の捕獲効率は著しく高い**0.3～0.4**で、夜間のシカの見撃情報も多かったことから、この時期が当該地域を通過するシカの季節移動のピークであったと考えられた

図 わな稼働数と捕獲数及び捕獲効率の経過

図 中期(モバイルカリング直後)の捕獲状況

### まとめ

- ◆ 凍結対策を施した誘引式くりわなにより、これまで実施が困難であった残雪期のシカの捕獲が、高い捕獲効率で可能となった。